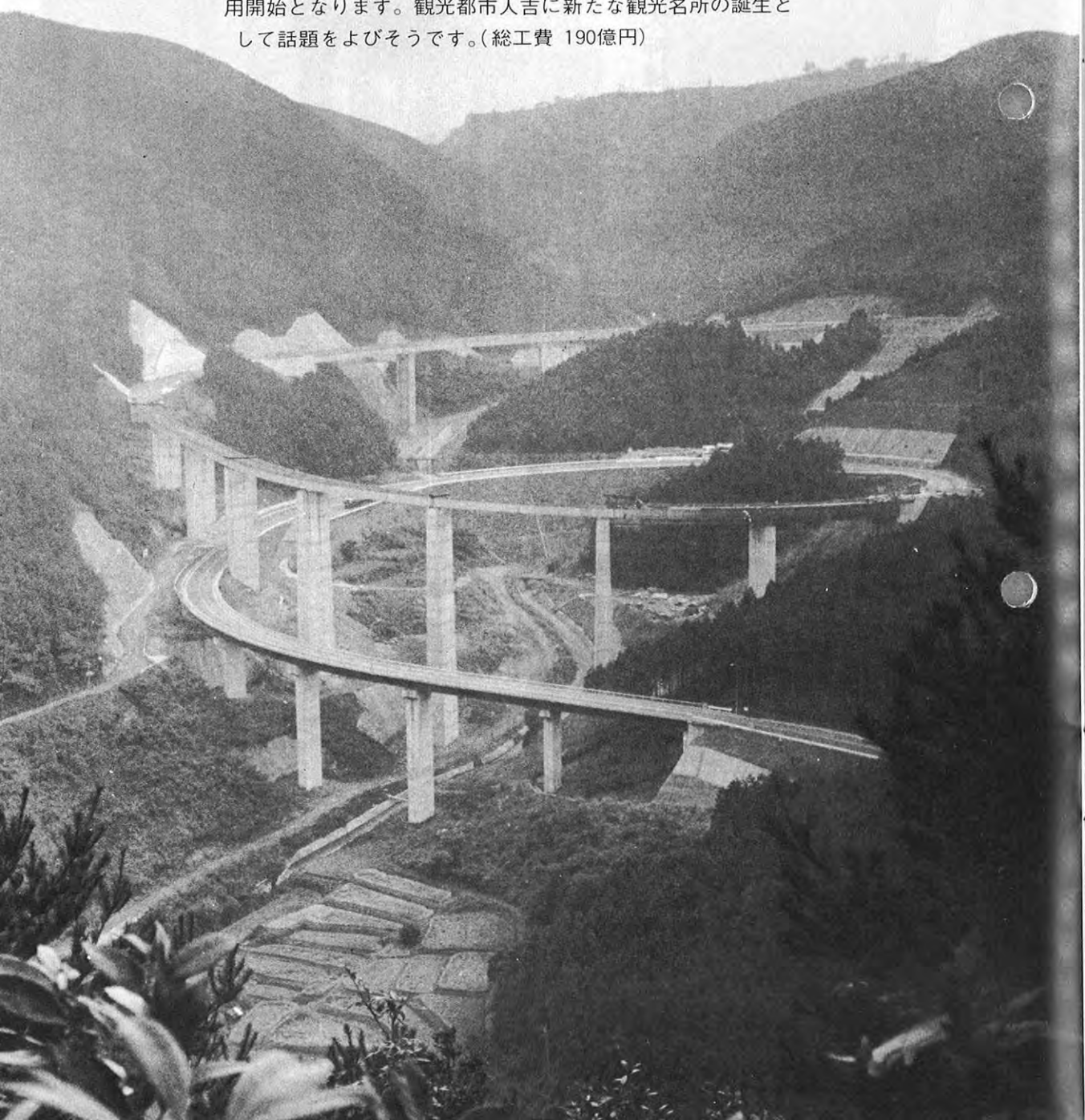


# 完成近し人吉のループ橋

熊本—宮崎間を結ぶ国道 221号の大改修工事は54年の完成を目途にいま急ピッチで進められています。改修工事は急こう配で幅員が狭く、曲折の多い従来の道路事情を解消する目的で行われるものです。

熊本県側は人吉市大畑町を起点に加久藤峠までの延長11キロ、ここに橋りよう14ヵ所を建設中です。なかでも大型ループ橋「昇雲橋」は直径190メートル、円周 800メートル、高さ60メートルと巨大なラセン状の威容をほこっています。既にこのループ橋の床板張り工事もすすんでおり、来春4月には宮崎県側 8.7キロを残し熊本県側は供用開始となります。観光都市人吉に新たな観光名所の誕生として話題をよびそうです。(総工費 190億円)



明日の熊本

私の提言



## テレビの活用

山田 義秀

テレビの普及はめざましいものがあって、いまやほとんどの家庭にあり、朝早くから夜おそくまで見られている。

含めると、平日で四時間五十七分、日曜日はさらに長くなっている。これをみると、おとなにも子どもにもテレビは、水や空気のように必要欠くべからざるものとして堂々と茶の間に入りこみデンと構えていることになる。

さて、情報化社会とは何か、という学問的考察は別の機会に譲るとして……人間は農業社会から工業社会に移った時はそれまでの常識の延長で生活できたが情報化社会が進行すると過去の常識では律しきれなくなると言われている。

かつて一家の首長は父だった。農家でも商家でも外部からの情報は家長を通して整理されて伝達され、それで秩序が形成されていた。

しかし、今はこれをテレビが代行し、情報を得るチャンスがすべて平等になり、情報格差が無くなってきたように思う。

そのことが子どものしつけにも影響し、親に代ってテレビがさまざまな番組を通して怪しいしつけをすることにもなってしまう。

まさに現代っ子はテレビに育てられているテレビっ子といえる。テレビがそのようなものであるならば、家庭でも学校でもテレビの見方について真剣に考えなければならぬ。ところが生活の中に占める「テレビ視聴」の比重が年々増大しているのに一方

でよくきく声に「テレビに生活を乱される」「テレビは受動的、画一的な人間をつくる」などがあり、特に子どもへの悪影響について心配するおとなが多い。しかし、テレビっ子を心配する前にテレビおとなの実態を知り、その向上こそが急務であろう。余暇時間の五〇%以上もテレビをみて過すおとな、しかも「ながら視聴」の無責任さでテレビに期待するのは娯楽だけという感じである。そんなおとなによってテレビが殆んど規制されることなく、子どもの自由にまかされている。子どもにとっては、良くも悪くも教育機器であることを幼児を持つ家庭では十分考えてほしい。

テレビの持つ機能をまずおとなが研究し、情報選択の能力を訓練し、生活に活かす工夫をしてはどうだろう。せっかくの長時間の視聴を目的をもっての視聴に切り換えて生きがいの手段にしたいものである。

日本人の平均寿命は七十歳を超え、今や人生八十歳の時代に入った。自分自身の生き方生きがい問われるようになってきた。そして、変動はげしい今日を生きぬくために、生涯にわたっての自分自身の勉強が必要であろう。

欲求があればテレビは手近かな教材であり教師である。

熊本でもテレビで学ぶ「放送利用学習会」に集まる人々が増加しているのも今

日的な現象であろう。また、個人で我が家の茶の間のテレビに真剣に向きあう人、それを楽しむ人の話もきく。

下益城郡砥用町に住むあるおばあちゃんにはタバコ屋さんでなかなか家をあげられないのでテレビが唯一の友人であり、教師であるという。教養特集やニュース解説などの番組で今の社会を知ることができると話される。

このおばあちゃんがテレビを見るとき必ず書きとめる視聴ノートは三百冊をこえ、それを読み返して考えることが何よりの楽しみであり、老化防止にも役立つと若々しい声で生々と話される。またある若いお母さんのグループで「おかあさんの勉強室」という番組や学校放送番組を親子同時に視聴して、家庭での話し合いを豊かにしようという運動が広がっていることもきいている。

この意欲ある人々の積極的な学習に、県内各地の社会教育関係機関、公民館などが手をさしのべていただいたらより効果があるのではなからうか。VTR等の機材を備え、指導者の養成を本気で考えてほしいと願うものである。

秋田・埼玉県では全県あげて放送利用にとめているそうであるが、熊本県でもぜひ、行政面でのテレビの活用と協力をお願いしたい。

(NHK九州本部長)